



一般社団法人 地域づくり支援機構 2018 年度定時総会 開催報告

堀越 正夫(地域 P&C 第 3 期生/専務理事・事務局長)

去る 6 月 3 日(日)、奈良県文化会館集会室 A・B において、「一般社団法人地域づくり支援機構 2018 年度定時総会」を開催いたしました。以下のとおり総会は成立し、議案は決議されましたので、ご報告を申し上げます。

1. 総会の成立

総会は、正会員 59 名に対して、出席会員数 45 名(本人出席 23 名、委任出席 22 名)と過半数の出席により成立いたしました。

2. 総会議案議決について

- ①第1号議案 2017 年度事業報告並びに収支決算承認の件:原案どおり承認可決されました。
- ②第2号議案 2018 年度事業計画並びに収支予算承認の件:原案どおり承認可決されました。
- ③第3号議案 役員退任及び選任の件:原案どおり承認可決されました。
退任:西尾明憲 新任:神剛司(地域 P&C/地域 P&C 養成塾塾頭)
- ④第4号議案 事務所移転の件:原案どおり承認可決されました(下記住所に移転)。
新住所:吉田遊福 P&C のラボ、奈良市油阪町 446-14 奈良安田ビル 5F
移転日:2018 年 6 月 4 日

2018 年度以降の事業については、現役員はもとより、新しく役員となられた神剛司理事のご協力のもと運営していく予定です。会員の皆さまにおかれましては、なおいっそうのご参画・協力を、よろしくお願い申し上げます。

※事務局は、後日、下記のとおり、担当が決まりました。

事務局長:堀越正夫、渉外部長:大塚徹、会計:なかたにみさこ、広報:東千恵子
地域 P&C 塾長:吉田遊福、地域 P&C 塾塾頭:神剛司

新・地域 P&C を認証

地域プランナー・コーディネータ(地域 P&C)養成塾を修了され、あるいは奈良フェニックス大学の所定の課程を修了され、地域 P&C 試験に合格された次の方々を、第 10 回地域づくりシンポジウムの席上、地域 P&C として認証いたしました。

地域プランナー・コーディネータ: 東郷寛路氏 鈴木大介氏 中山真由美氏
地域プランナー: 板垣伴之氏

今後は、地域 P&C の仲間として、各地域における地域発展を積極的に支援されるとともに、地域 P&C の先達として後進の指導にもあたられることを期待いたします。

第 10 回 NAED 地域づくりシンポジウムを振り返って

井ノ本直三(地域 P&C 第 2 期生/副理事長)

2018 年 6 月 3 日、第 10 回地域づくりシンポジウムを開催したところ、会員並びに関心をも方々など約 60 名の参加を得て開催できました。関係の皆さまに感謝を申し上げます。

地域づくりシンポジウムは、従来、人材育成の一環として“地域P&C 養成塾”受講生の卒塾となる最後の締めくくりとして塾生の企画・運営により開催してきたところですが、今回は、10回目という区切りでもあり、実行委員会を組織して開催しました。その委員長に私が指名を受け、次のとおり実行委員会メンバーをお願いしました。

堀越正夫(事務局/専務理事)、吉田遊福(理事)、神剛司(理事)、吉村耕治(理事/地域P&C 塾指導者)
なかたにみさこ(理事/地域P&C 塾指導者)、中辻孝之助(9期生)、布川拓海(9期生)、木本京子(9期生)
野崎弘之(9期生)、東郷寛路(10期生)、鈴木大介(10期生)

シンポジウムの内容について紹介します。基調講演では、「地域づくり～私の軌跡～」と題して、木村衛氏 (NAED 顧問/前副理事長)から、奈良県農業の振興の必要性、農業体験を通じて意識の醸成、農山村の魅力の活用など、長年にわたって取り組んでこられた体験をベースにお話をいただきました。



続いて、「ツチノコで地域づくり30年」と題して、野崎和生氏(ツチノコ共和国代表)に、1988年から“ツチノコ探検”を行い、下北山村の観光の推進を目指して多岐にわたり展開してこられた活動について、

今なお夢を追い求め次の活動も見据えながら熱く語っていただきました。

新・地域P&Cによるプレゼンテーションでは、東郷寛路氏が、「街の地域おこしと6次化の捉え方～感性のベースづくり～」として“奈良町の南に位置する京終地区”に注目し、「京終さろん」として食を通じた地域間交流“京終大皿会”を定期的で開催していること、情報交換や交流を行いながら感性のベースづくりを進めることを紹介されました。

鈴木大介氏は、「雑穀プロジェクト『山天じゃあよ』～タネをつないで地域をつなぐ～」として、“農ある暮らし”を求めて十津川村へ移住し、自ら“十津川なんば(とうもろこし)”や“むこだまし(白もち粟)”などを栽培しながら、地域住民との連携を図りつつ、生産組合「山天じゃあよ」を設立したこと、“十津川なんばのパンケーキミックス”の商品化も目前、地域住民とともに地元食材を活用した新たな商品づくりの機運が高まってきていることを紹介されました。

続いてのパネルディスカッションは、パネリスト、コーディネータを次の方々をお願いしました。

パネリスト 野崎和生氏(ツチノコ共和国代表)

〃 甲賀晶子氏(奈良県まちづくり推進局地域デザイン推進課市街地整備推進係長)

〃 原田弘之氏((株)地域計画・建築研究所執行役員)

〃 なかたにみさこ氏(ひとまち元気カンパニー代表)

コーディネータ 神剛司氏((株)乃村工藝社チーフプランナー)



テーマは、「“違い”が生み出す地域の新たな知恵とアクション」として、コーディネータから地域づくりに関わる様々な立場を踏まえ

ながら、地域づくり活動で悩んでいる仲間を元気にするような展開を問いかけてもらいました。

パネリストからは、「都市住民との交流」、「無から有をつくるおもしろさ」、「日頃からまちづくりへの関心をもち続ける」、「自分たちの地域ビジョンの共有」、「多様な技術をもつメンバーとの共同プロジェクトの創出」などの提案がありました。

締めくくりとして、コーディネータからは、「知見を次世代に継承できずに絶滅したネアンデルタール人とそれができた私たちホモ・サピエンスの先祖を引き合いに、自分たちがそれぞれの立場で地域づくりを通じて獲得した知見を広めることが大切」と熱く語っていただきました。

最後に、村田理事長から、基調講演のお二人へは、永きにわたり地域活動に貢献されたことに対する敬意と謝意が述べられ、また、他のスピーカーの方々へは、日頃の地域活動への感謝に加え、地域住民との連携・協働を図りながら、地域活性化活動の引き続きの展開を期待するとの言葉があり、シンポジウムの閉会となりました。

活動報告「まちづくり協議会は、時代とともに変遷する」

中辻孝之助(地域P&C 第9期生)

宇陀市菟田野まちづくり協議会の支援を行いました。菟田野まちづくり協議会のこれまでの年度行事は役員会において思案・決定されており、約100人の委員の動きもままならぬ状態であり、実質15人程度で盛り上げてきた経緯があります。また、まち協役員、委員でない構成員または住民たちの意見は取り入れられていませんでした。

従来から毎年数回開催される“まちづくりカフェ”は、地域課題を多く羅列するだけに留まったワークショップでしたが、「それでは前に進まない、今のままではいけない」とのことで、2018年度からは、“まちづくりカフェ”に参加いただいた地域住民等(地域外を含む)の意見を尊重し、行事の予算どりをするよう提案し、住民参加を促す対策としました。

「人とのつながり」との観点から、営農組合アイサ・イボリーズのメンバー稲森綾子さんのお話から始まり、その後、地域づくり支援機構理事の北森義卿氏から感想と事例・指導でもって発言意欲を高め、グループディスカッションに望んでもらうというストーリーを描き、ディスカッションの具体的内容をまち協葛城様、西角様らと幾度か協議した結果、行事ボランティアの参加をも誘うことを念頭において、とにかく楽しいことをやりましょうとのことでテーマを絞り、今回参加者には「健康・娯楽」としてこれからの行事を考えていただくこととしました。

第8回まちづくりカフェ in うたの

《日時》2018年2月18日(日)13時30分～

《開催テーマ》住みよい菟田野をめざして、地域の将来を考えてみませんか

《主催》菟田野まちづくり協議会

《講演》稲森綾子「私から見た“菟田野”」

《構成協力》一般社団法人地域づくり支援機構:中辻

《参加》菟田野まちづくり協議会:13名(男7名、女6名)

宇陀市地域アドバイザー:1名、地域住民:19名(男7名、女12名)

一般社団法人地域づくり支援機構:2名(北森、布川)



参加くださった北森義卿氏からは、次のコメントをいただきました。

『菟田野まちづくり協議会、“まちづくりカフェ”に、参加させていただいて感じた点につき参考意見として述べます。菟田野まち協は旧菟田野地域全体を対象に大組織として結成されています。地域全体を「より活性化したい」「豊富な人材を活用したい」という思いが強く感じられる組織で羨ましくもあります。統一的なテーマで取り組み、成功した場合は大きな成果が得られる半面、やや危惧する点は、広い菟田野の各集落(自治会)が抱える身近な課題や思い、地域ごとの人々の価値観の違いなど、地域の状況の違いが顕在化して、大組織菟田野まち協の取り組みとうとするテーマに無関心層が増えるリスクです。

地域づくりは、多くの住民の方々が、将来の自分たちの地域をどのようにしたいのか、関心をもって参加してくれることが重要です。将来の菟田野をどのように創造していくかに挑戦する菟田野まちづくり協議会と各地域(自治会)ごとに、そこに住む人々に最も関心のある多くの人たちが参加し、協力し合える、自主性を重視した地域協議会の並立が、多くの人々が参加して下さるのではないだろうか。菟田野まちづくり協は全体のまとめと調整、時には競争心を盛り上げる働きをするのはどうでしょうか。

要注意は、最初から経済的効果追求を第一義にすると、地域によっては手詰まりになる可能性があります。地域の人々の“つながり・まとまり”を重視した、“楽しむ・行動する”地域を先ず目指してください』

地域P&C 同期の布川さんからは、こんなコメントをいただきました。

『今回の“まちづくりカフェ”では、稲盛さんのお話を伺った後、グループディスカッションが行われた。グループディスカッションで与えられたテーマは各グループ共通で“娯楽”。これからの菟田野で楽しめる娯楽を考えるというものであった。各グループとも、過去に娯楽として楽しまれていたイベントから、新たなイベントまで、娯楽の候補がいくつか挙げられ、参加者が活発に意見をだしているように思われた。

その一方、娯楽＝遊びととらえて、娯楽がテーマになっていることに不満の声もあり、まちづくり協議会は真剣

に菟田野を活性化させる気がないのか？との意見も聞かれた。今回のテーマが娯楽に決まった経緯や、過去の“まちづくりカフェ”でどのような話がなされたのかが参加者内で共有されていなかったのが原因だと思われるが、菟田野まちづくり協議会の葛城様にその点を指摘すると、「まちづくりカフェの開催を告知するチラシにはそういった内容を書いているのだが、読んでもらえない」とのことであった。

まちづくりカフェの参加者は常に同じ顔ぶれとは限らないので、過去のまちづくりカフェでどのような話がなされたのかを周知することが、まちづくりに対する意見を求めるためにも重要ではないかと思われた』

菟田野まちづくり協議会の意見の収集アイテムである“まちづくりカフェ”を進化させて開催したものであったのですが、私は急用のため当日の参加はできなくなってしまい、残念ながら状況把握ができませんでした。後日、まち協の葛城様、西角様に状況を尋ねたところ、コトがうまく進み、かなりの成果があった、次年度の予算どりができる状況まで確認できたとのことでした。

また、遠くから菟田野まち協を引っ張ってくださっている稲森さんに感謝です。地域外の意見も取り入れることにより、地域の考え方も変わっていくだろうし、閉鎖的になりません。

さらに、この先を考えると、“まちづくりカフェ”参加者の意見が取り入れられることになるので、次回の参加者数も気になるところですが、さて菟田野まち協役員ではなく委員たちはどんな動きをするのか？やはりポイントは女性ですね。

第1回 うたのニュースポーツ大会開催

参加者募集

○開催日 平成30年6月24日(日曜日)
 ○開催場所 鹿林センター(菟田野地域事務所上)
 ○集合時間 午後1時30分(開会)
 ○参加費 無料
 ○持ち物 体育館シューズ(上履せ)

○種目内容



1 囲碁ボード



2 室内バレー



3 ストラクアウト



4 スカイクロス



5 卓球パレー

○参加申込 6月15日(金曜日)までに下記申込用紙に記入のうえ、菟田野まち協事務局(菟田野地域事務所内)まで FAXまたは、直接お申し込みください。
 TEL 0745-84-2521
 FAX 0745-84-4089
 <菟田野まちづくり協議会、宇陀市体育協会菟田野支部 共催事業>
 <協力:宇陀市スポーツ推進委員>

<申込用紙>

「第1回 うたのニュースポーツ大会」申込書

氏名	性別	生年月日	住 所	電話番号
	男・女	T・S・H 年 月 日		
	男・女	T・S・H 年 月 日		
	男・女	T・S・H 年 月 日		
	男・女	T・S・H 年 月 日		

2018年度の予算どりを終え、動きのかかった菟田野まちづくり協議会は、「うたのスポーツ大会」を開催することとなりました。第1回って良いですね。

軽スポーツは各地域で行われていますが、菟田野まち協にとっては出発点にすぎません。“まちづくりカフェ”で誘った行事ボランティアを動員し、多くの住民の参加を募ることとしました。また、毎年継続して行われること、これに伴い良き指導者、後継者づくりも大切なことですので、支援を続けたいと思っております。

参考までに、この行事の収支予算等は、次のとおりです。

(収入)宇陀市いきいき地域づくり補助金 70,000 円(年 1,058,000 円の一部)

(支出)運営経費 70,000 円(広報 30,000 円、スタッフ 30 人分の弁当等 40,000 円)

予定集客 50 名

2017年11月から菟田野まち協さんとキャッチボールをやっているうちに、事務局より、支援後の報告を以下のとおり頂戴できました。

地域づくり支援機構にお世話になってからの菟田野まちづくり協議会

●はじめに

今年の菟田野まちづくり協議会は、大きな変遷の年であったと言えます。一つには、稲森さんを介しての枚方宿「くらわんか五六市」への出店、もう一つは、中辻さんを介しての「地域づくり支援機構」によるアドバイスを受けられたことです。いずれにしろ人とのつながりを大切にしてきた役員の努力により達成できたことです。

地域づくり支援機構にお世話になったきっかけは、奈良県立大学の学生との世代間交流でした。以前より奈良県立大学から「単位取得のための学生の受け入れを行ってほしいか。」と言われていたのですが、何をどうして良いかわからず、途方に暮れていた矢先に中辻さんとの出会いがあり、アドバイスをいただくこととなりました。

●世代間交流(奈良県立大学学生の受け入れ)

世代間交流で県大の学生を受け入れることになった時に、中辻さんから深野、室生で昨年10月に実施した経験をもとにアドバイスをいただき、概略を理解することができ、戸惑うことなく実施することができました。自分たちだけではスムーズに行動できなかったと思います。

世代間交流のディスカッションの際には、中辻さん、北森さん、吉村さん、布川さん、井上さんの5名の方のご参加により各テーブルの意見交換会の進行もスムーズに行っていただきました。ここでは、今後の参考意見を多く引き出していただきました。

●まちづくりカフェ in うたの

世代間交流に引き続き、まちづくりカフェのアドバイスもいただきました。8回目となるまちカフェですが、これまでは講演のあとのグループ別意見交換会の時に参加者の感想だけで終わっていたのが現状でした。

何か具体的な行動を起こさないといけないと考えていた時に、中辻さんからアドバイスをいただき、背中を押していただく形で今回の意見交換会に臨むことができました。具体的には、難しいことよりも、手始めとしてみんなのできる娯楽などを話し合ってもらってはどうかということで、方向性を示していただきました。

布川さん、北森さんも参加いただき、まちカフェの状況を見て、今後の参考となる評価もいただきました。

●総評

菟田野まちづくり協議会にとっての課題は、固定概念に縛られない行動力です。今回アドバイスをいただくことによって、中辻さんから行動に移す際の後押しをしてもらった感があります。まちづくりに関する議論ができ、自分たちのまちづくりの考え方や行動、実働部隊の結成などが正しいかどうかの指針にもなるので、助かっています。

菟田野まちづくり協議会ではまだ具体的な変化は出ていませんが、私たちの間では変化が起こっています。ただいま、これまでいただいた報告・レポートを運営委員会で確認しているところです。

今後とも地域づくり支援機構のバックアップをよろしくお願いします。

活動報告「奈良県立大学フィールドワーク支援・地域間交流・世代間交流」

北森義卿、神 剛司(地域 P&C 第3期生)

中辻孝之助、山本佑子、井上智路、布川拓海(地域 P&C 第9期生)

レポート: 中辻孝之助

はじめに

2018年4月1日より、宇陀市文化芸術活動体験交流施設「ふるさと元気村」が、宇陀市田口地区まちづくり協議会の指定管理となりました。同施設イベント「6/30ほたる観賞会」を機に、まち協の受入れ行事としてフィールドワークを申し入れました。大学生たちもリポート6名参加、喜ばしいことです。

《日時》2018年6月30日(土)～7月1日(日)

《エリア》宇陀市室生下田口、室生黒岩、室生、菟田野岩端、宇陀郡曾爾村

《開催テーマ》中山間地域の取組み、地域の潜在資源を探る

《フィールドワーク1日目1限》曇り



朝一番は、宇陀市文化芸術活動体験交流施設「ふるさと元気村」におじゃま致しました。オリエンテーション後、宇陀市田口地区まちづくり協議会田中会長より、田口地区まち協の組織、規約および年間の取組みについて、続いてふるさと元気村の岩本委員長、江本さんより、歩みについてのお話と学生たちに施設案内をしていただきました。

少し意見交換を行ったところ、空き家は土地建物の所有者が相違し、土地所有者が売却を承知してくれないので古民家を買いたくても買いたくなくなる事情、また、狭い県道28号線を観光用道路と指定し拡幅する準備が進められていることなのですが、この道路(室生寺前～弁財天間)が整備され、情報発信を増やすことで弁財天石楠花の丘、ふるさと元気村の入込客増加につながるのではなかろうか。

《参加者》奈良県立大学(3回生5名、地域交流室1名)、東京農工大学(4回生1名)

宇陀市(田口地区まちづくり協議会2名、ふるさと元気村2名)

宇陀市室生地域事務所1名、地域づくりアドバイザー1名、地域ボランティア1名

一般社団法人地域づくり支援機構(一般会員5名、賛助会員1名)

昼食は、ふるさと元気村の施設内で地域の主婦たちが営業(火、第2・4土曜)する「たぐちきっちん」で、1食750円とは思えないほどにすばらしいランチ。



《フィールドワーク1日目2限》晴れ、にわか雨

昼食後、曾爾村企画課地域おこし協力隊かつ当機構同期メンバーである山本さんの案内で曾爾村屏風岩へ。視察後、同地域おこし協力隊渡利さんのプロデュースするモトクロスコースお披露目、完成は未だですが、8月にはオープンしたいとのこと。曾爾村所有の山にすごいですね。



どしゃぶりの雨の中、車移動して古民家再生中の現場を訪れ、曾爾村企画課高松さんより、曾爾村の産業振興、移住と定住対策等をお話いただきました。大先輩当機構顧問の木村衛さんが開設提案した滞在型市民農園(クラインガルデン曾爾)の話も飛び出しました。当機構メンバーである山本さんからは曾爾村に移住したきっかけ、同地域おこし協力隊並木さんからは現在曾爾村で力をいれている漆についてそれぞれお話いただきました。

その後、学生たちは「お亀の湯」で一休み、その間に注文しておいたBBQ食材を手に入れに……。

《BBQ・ほたる観賞会》曇り

曾爾村から戻ってBBQ準備(汗)、準備中に先生をお迎えに(汗)

夕刻より地域間交流・世代間交流を目的として開催した「ふるさと元気村」でのBBQも盛大に行われ、室生黒岩でのほたる観賞も何とかクリア。田中まち協会長によれば「今年の10分の1位の蛍かな?」

《参加者》奈良県立大学(3回生5名、先生1名、地域交流室1名)、東京農工大学(4回生1名)

宇陀市(田口地区まちづくり協議会1名、ふるさと元気村1名、菟田野まちづくり協議会3名)

宇陀市役所企画課4名、地域ボランティア1名、地域住民2名

曾爾村(曾爾村役場企画課1名、地域4名)、寝屋川市(現第11期地域P&C養成塾生1名)

一般社団法人地域づくり支援機構(一般会員5名、賛助会員1名)

ほたる観賞後、学生たちと意見交換…(ふるさと元気村に9名宿泊)

《フィールドワーク2日目1限》晴れ

朝食は、ふるさと元気村近くにある「ろぐからっぽ」さんと、同時に下北山村出身で代表の上平さんから、移住から店舗開設の経緯、現在までの沿革等のお話をいただきました。モーニング予約は初めて受けたそうですがこれを機に頑張ると言われていました。メニューはすべて1コイン。火・土・日・祝フィンランド国旗が立っていれば営業中。

この後、田口水分神社、室生龍穴神社にお参り、気持ちのよい朝を過ごし、学生たちは、ものづくり体験学習として切り絵に挑戦。2時間みっちり江本先生に教わりました。この時間中に昨日のBBQの片付け(汗)

《フィールドワーク2日目2限ディスカッション》晴れ



昼食を「ろぐからっぽ」さんと済ました後、「農村レストランいわはし」に立ち寄り、注文しておいた柿の葉ずしを買って菟田野岩端「月うさぎ」へ。「月うさぎ」は、古民家カフェとして東吉野村に拠点を置いておりましたが、賃貸物件であったので、菟田野岩端の土地・建物を自己所有として購入し、新しく古民家カフェ「月うさぎ」として出発することとなりました。「月うさぎ」のオープンは、8月末をめどに進められ現在改修中ですが、縁により利用させていただくこととなりました。

「月うさぎ」瀧口さんから、転居経緯、現状確保している土地見学を含め、これからの展望、里山利用等の説明を受けました。これに対し、菟田野全体も含めワールドカフェ方式でもってサイクリングロード・遊歩道の整備、紙すき体験など数々提案をさせていただきました。

《参加者》奈良県立大学(3回生5名、先生1名、地域交流室1名)、大阪芸術大学(先生1名)

宇陀市(市長、地域づくりアドバイザー1名、地域ボランティア1名、地域住民4名)

NPO法人森の月人(理事長ほか2名)、Bee Forest club 大和ミツバチ研究所1名

一般社団法人地域づくり支援機構(一般会員2名、賛助会員1名)

参加者のほとんどがこの方式でのディスカッションは初めてだったそうでしたが、楽しく進められました。難関は設問を絞っていきますのでやりづらいところもありましたが、自分の提案したものが展開・変化し、意味深くなっていくのを目の当たりするのを感じたと思われます。提案されたものを現実化させるのは時間がかかりそうですが、できることから進めようとのことでした。宇陀市長も興味深く参加くださり、次回も機会があれば参加したいとおっしゃってましたので、また誘います。

その後、学生たちの2日間のまとめ時間をいただいてまもなく無事終了。

【フィールドワークを通じて】

まず、昨年秋から数回のフィールドワークを実施できたこと、関係者の皆様に感謝です。これを通じ地域間交流を重視し、今回は宇陀市田口地区まちづくり協議会役員と宇陀市菟田野まちづくり協議会役員の交流を図り実施した結果、地域間交流の重要感を両協議会が認識しております。閉鎖的・孤立的な地域に成りかねないよう、まめにこういう機会をもてればますます発展に寄与するのではないかと思われます。

地域振興の奥深い閉鎖的な地域であっても情報交換・収集は行っているはずなので、このような機会があれば地域づくりにおいて継続とはいえマンネリ化を抑えることができるし、変化をもたせることができる。よって地域間交流の場を設け、続けていきたいと思っております。

ちなみに、現在宇陀市全体22のまちづくり協議会の役員さんたちが集合する会合は、年0回である。宇陀市まちづくり支援課は、懇談会と称して今年度から実施するらしい。事業計画・報告を決められたまち協からのプレゼンテーションにより、質疑応答や情報収集を行うというものである。これを年何回やるのかは決められていない。

以上